

⑤ 依頼製作

受託年月	完成年月	件名	数	依頼者	製作担当者等
13・2	13・3	名古屋汎太平洋平和博覧会記念銅牌	50個	名古屋市長 大岩 勇夫	図案 森田 武 製作 松沼 源吉
13・3	13・3	銀製花盛器	2個	馬政局	石田 英一
13・7	13・10	賞牌	10個	日本学術協会代表 西成甫	渡辺 顯
13・9	13・10	花盛器	2個	馬政局	石田 英一 外箱等 黒川 義勝

⑥ 川合玉堂の辞職・日本画科改革問題

日本画科主任教授川合玉堂は、既述のように帝展改組問題に関連して昭和十一年六月に辞表を提出したが、留任して同十三年四月十四日に至り辞職が許可された。その際、玉堂は日本画科生徒の学芸研究を補助するための奨学金五千元を寄附した。玉堂が辞職した結果、結城素明が同科主任となり、教授結城素明、小泉青堂、助教塚常岡文亀、山田廉、講師矢沢弦月、川崎小虎という指導体制となった。一方の油画科が岡田三郎助、藤島武二、小林万吾、南薫造、田辺至ら教授五名であるのに対して、日本画科はわずか二名となり、また、帝国芸術院会員級の作家は、油画科が岡田三郎助、藤島武二、南薫造の計三名、彫刻科も北村西望、建昌大夢、朝倉文夫の計三名、工芸部が和田三造、香取秀真、清水南山、津田信夫の計四名であるのに対して日本画科は素明ただ一人という状態となった。

日本画科の人事問題は、既述のように松岡映丘の辞職（昭和十年

九月）の頃から大きくクローズアップしていたが、この問題は芝田校長時代へ持ち越された。左記の記事に明らかのように、芝田校長も解決に苦慮したようだ。

日本畫科改革で美校に一騒動？

芝田新校長一大刷新を決意

注目・美術界の推移

文部省圖書局長から東京美術學校長に轉任した芝田徹心氏は就任以來校内の空気を靜觀すると同時に本年度文展一般日本畫部の成績を見た結果現在東京美術學校日本畫科の機構に對し一大改革を行ふ必要を痛感し教授の入替其の他根本的教育方針改更案を樹立すべくその準備に着手したと云ふことであるが、同校日本畫科には從來三つの勢力があつたが過般の美術界騒動から主任教授の川合玉堂氏が辭職しその前に松岡映丘氏も去つて、現在は結城素明畫伯の天下となつてゐるが、これに改革を斷行しやうとなると可なり大きな騒ぎが校内外に起ることを豫想しなければならぬ狀況にあるので芝田校長は慎重な態度で學校騒動を極少範圍内に止めて改革を行ふ良案を考究しつゝあるとの事である、今日の儘で放置すれば今議會で大口大議士あたりから平生文相に對し文展問題、帝院問題と共に鋭い質問をあげせることは明かであるによつて或は美校改革が促進される事になれば芝田校長は存外樂に學校改革を斷行することが出来るのではあるまいかとも見られるが、兎に角美校日本畫科改革によつて一と騒動起る氣配が濃厚に上野